

# Xバンド衛星通信中継機能等の整備・運営事業

---

平成28年5月

防衛省Xバンド衛星通信整備事業推進グループ

# 目次

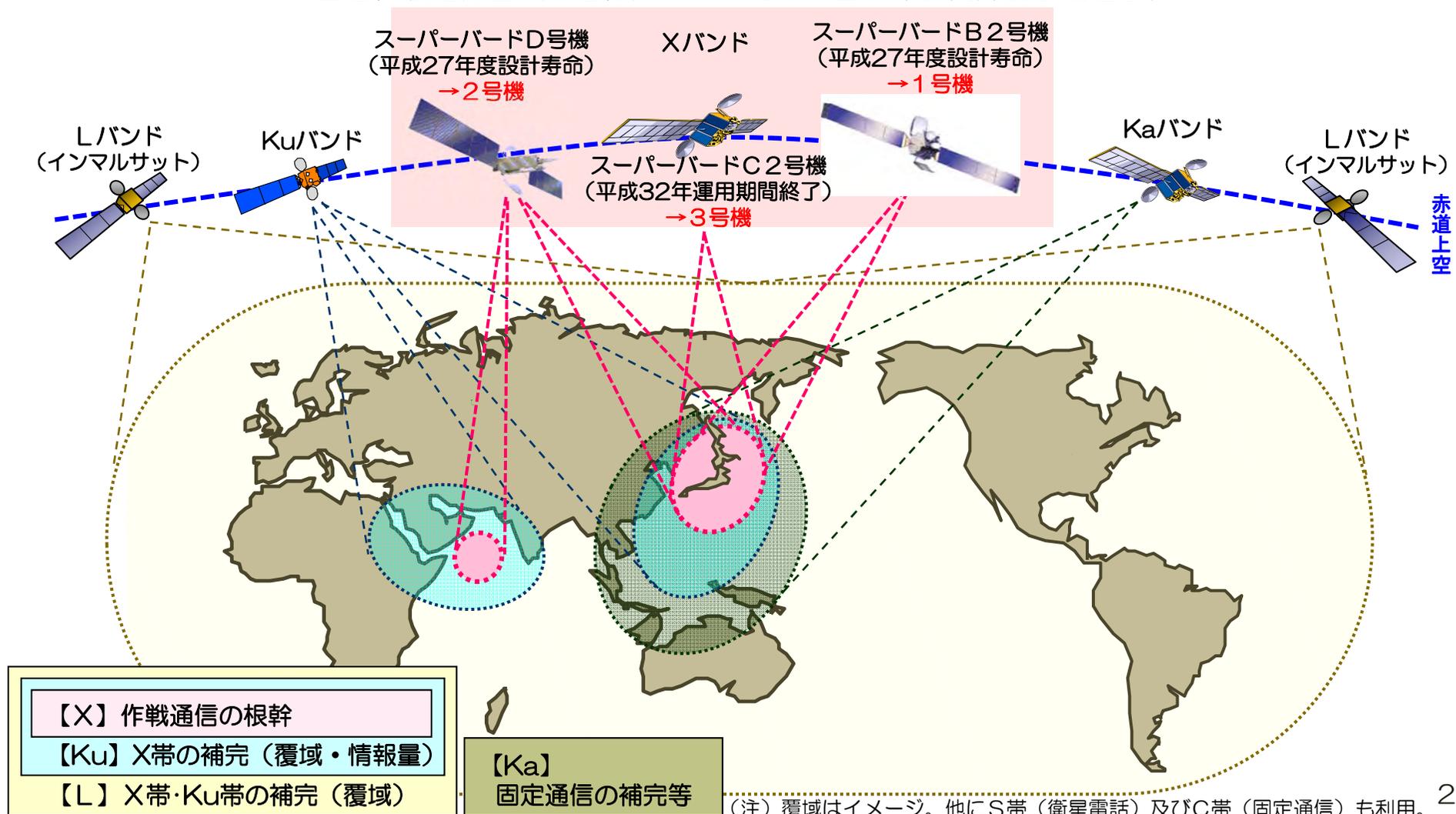
---

- 1 事業全般について
  - 1-1 防衛省の衛星通信体系におけるXバンド衛星通信
  - 1-2 Xバンド衛星通信整備事業の意義
  - 1-3 事業の枠組み
- 2 1号機及び2号機について
  - 2-1 事業の構成（1号機・2号機）
  - 2-2 事業の進捗状況（1号機・2号機）
  - 2-3 事業の業務分担（1号機・2号機）
- 3 3号機について
  - 3-1 事業のスケジュール及び構成（3号機）

参考 宇宙基本計画工程表（平成27年度改訂）

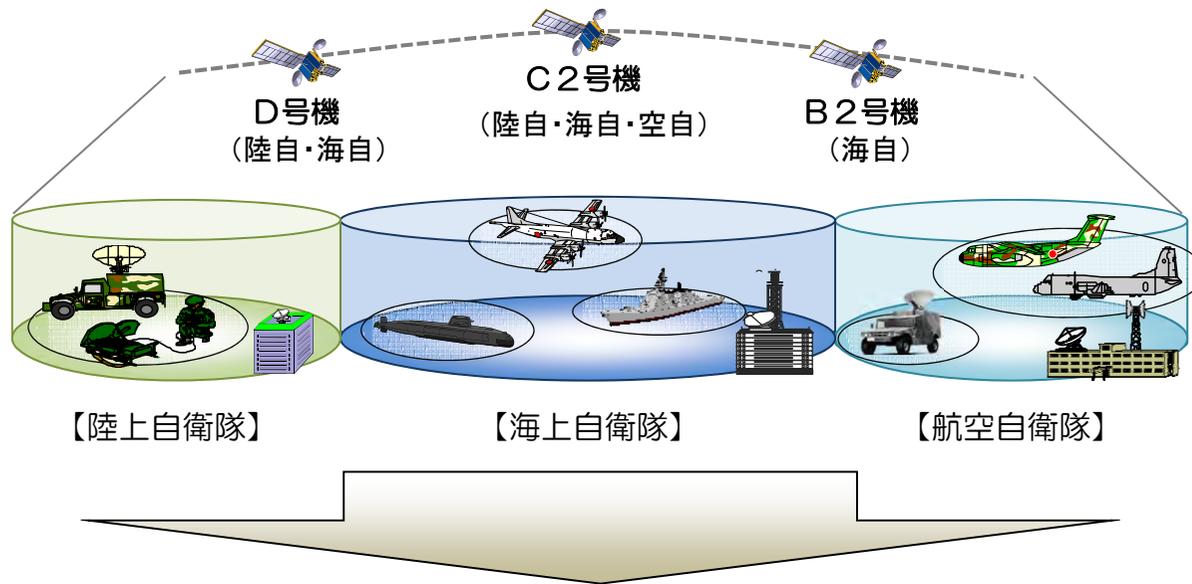
# 1-1 防衛省の衛星通信体系におけるXバンド衛星通信

- 自衛隊の衛星通信は、主としてX、Ku、L、Kaの各周波数帯域（バンド）を使用。
- このうちXバンドは、作戦部隊の指揮統制や作戦情報支援など、部隊行動に関わる重要な通信に使用。
- Xバンド衛星通信網を構成する通信衛星3機のうち2機の設計寿命に伴い、後継衛星2機を整備。
- スーパーバードC 2号機後継衛星（3号機）については、29年度概算要求を追求。



# 1-2 Xバンド衛星通信整備事業の意義 (その1)

## 現用機能



- 各自衛隊別・部隊等別の衛星通信

状況に応じた通信回線のコントロール

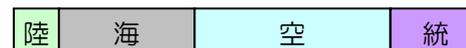
○大規模災害派遣



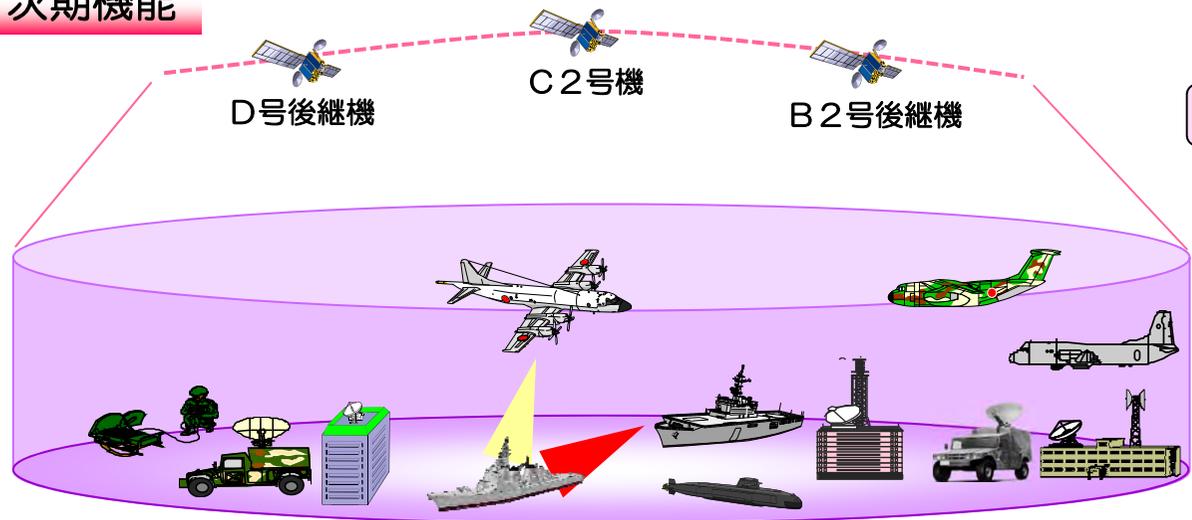
○海上警備行動



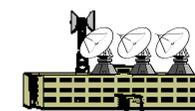
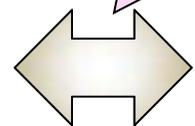
○OBMD対処



## 次期機能



一元的に統制



【統幕】

- 一元的な通信統制と異種部隊等間通信を実現

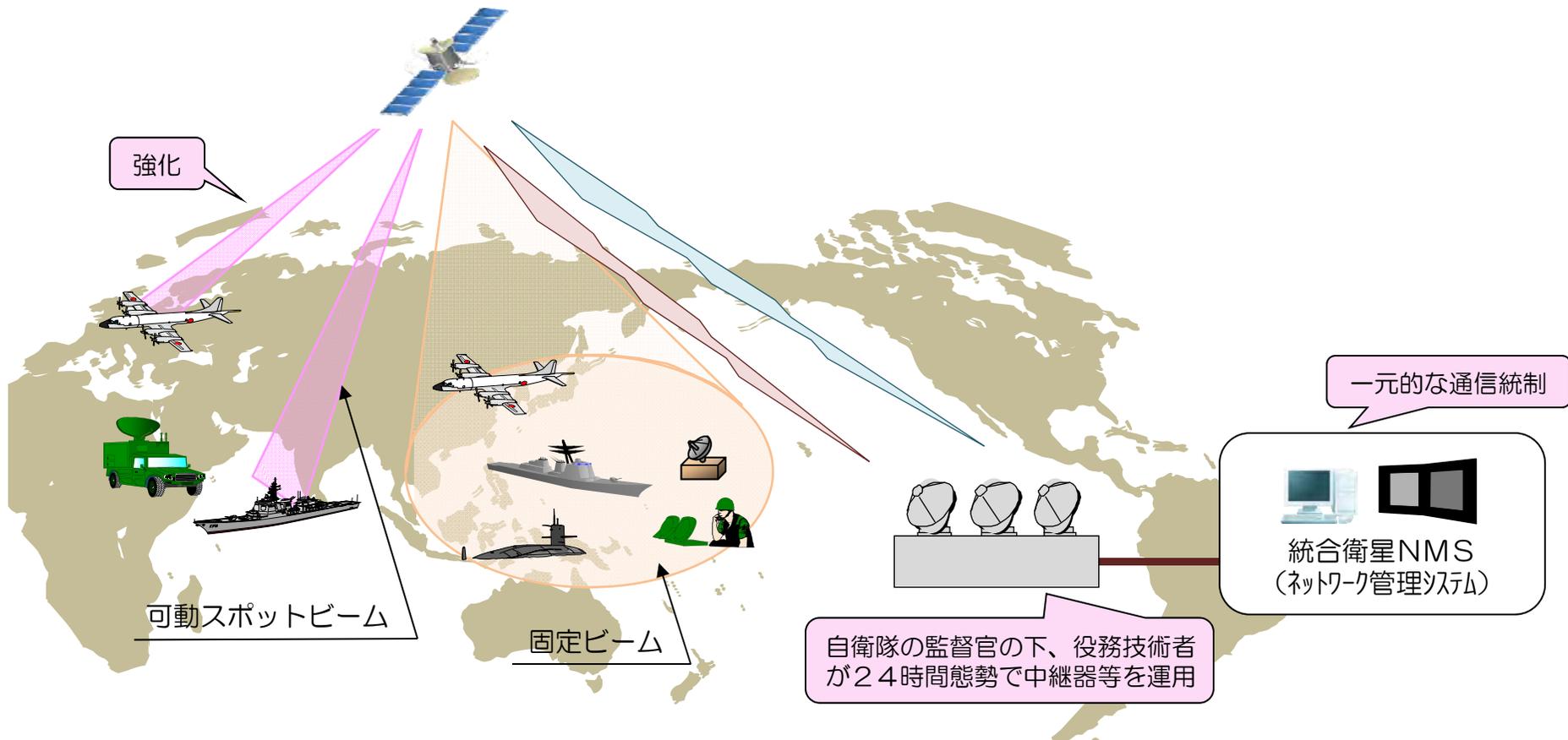
# 1-2 Xバンド衛星通信整備事業の意義 (その2)

## 現用機能

- 通信速度等に制約 ⇒ 音声・FAX等主体
- 国外での通信中継能力に制約
- 通信事業者から中継役務を調達

## 次期機能 : より柔軟な部隊運用

- 高速・大容量化 ⇒ 画像・映像等に適応
- 可動スポットビーム機能を強化 ⇒ 国外での中継能力を向上
- 防衛省の指示等による主体的運用

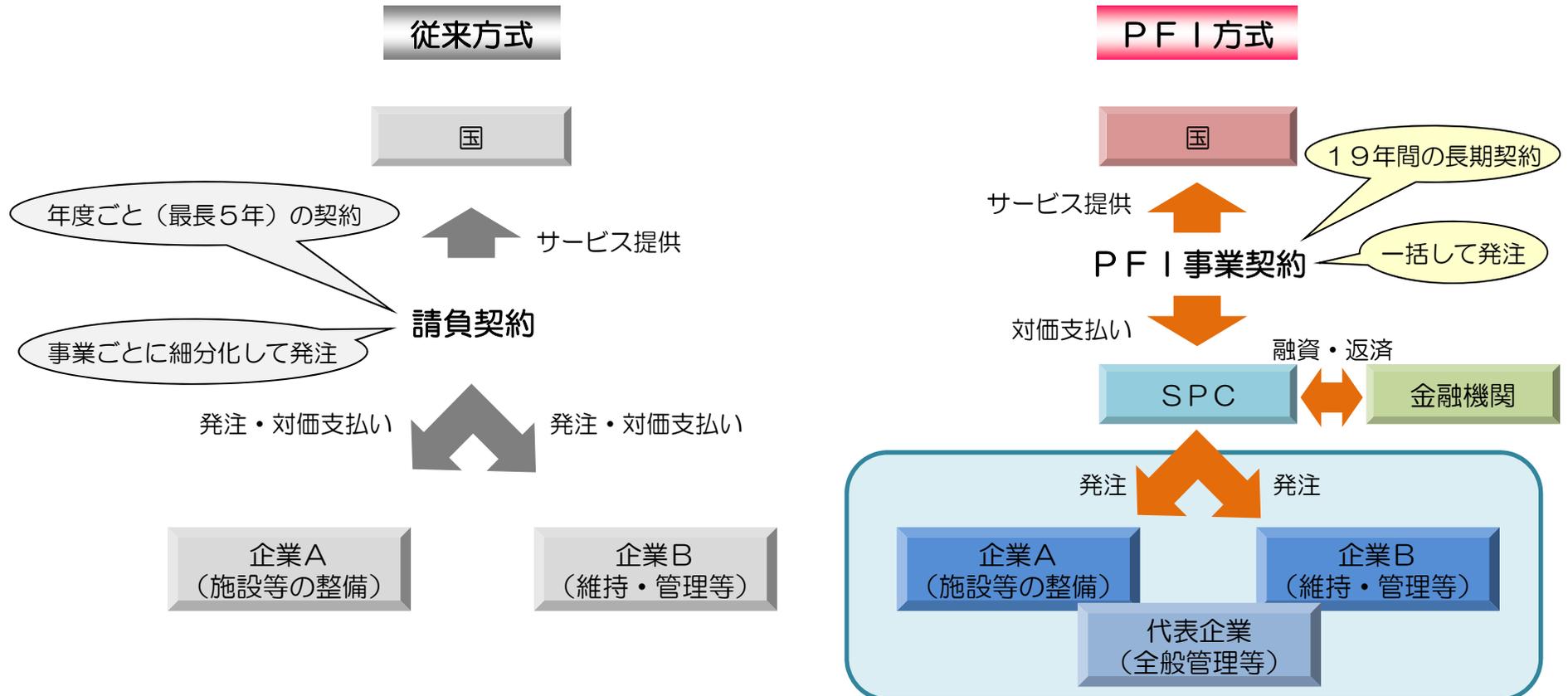


# 1-3 事業の枠組み

## PF I 方式を導入

- 23年6月にPF I 法が改正され、人工衛星が船舶・航空機と共に新たに適用対象として追加。
- 衛星事業は、大きなリスクを伴い、多額の資金と高度の専門的知見が必要。
- リスク管理を最適化するとともに、民間の資金・能力等を活用することにより、経費負担を軽減・平準化。

※ 整備費は民間が融資により調達し、国は衛星等の引渡し以降に元金均等で支払い。維持管理運営費は、運用開始以降毎年均等額を支払い。



※ SPC (Special Purpose Company) : 特別目的会社。 5